

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

下松市教育委員会

1 全国学力・ 学習状況調査 の結果公表

令和6年度全国学力・学習状況調査（令和6年4月18日実施）の結果についてお知らせします。

本調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象に、学力の状況や児童生徒の生活習慣、学習環境等の状況を把握するとともに、児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善に役立てるものです。本年度は、国語、算数・数学、英語が実施され、合わせて、児童生徒質問紙により、生活習慣等に関する調査が行われました。

山口県の結果

小学校	平均正答率	
	全国	山口県
国語	67.7	68
算数	63.4	64

中学校	平均正答率	
	全国	山口県
国語	58.1	58
数学	52.5	52

下松市の結果

下松市の平均正答率について

小学校は、全ての教科において、全国、山口県の平均正答率とほぼ同等であり、中学校は、全ての教科において、全国、山口県の平均正答率を上回る結果となっています。

2 教科に関する結果

◎：相当数の児童生徒ができている点 ▲：課題のある点

小学校 国語

- ◎ 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること
- ◎ 情報と情報を関係付けたり、図で語句と語句を関係付けたりして表すこと
- ▲ 資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現すること



小学校 算数

- ◎ 数量の関係を、□を用いた式に表すこと
- ◎ 直方体の見取り図について理解し、かくこと
- ▲ 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること



中学校 国語

- ◎ 目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること
- ▲ 目的に応じて必要な情報に着目して要約すること



中学校 数学

- ◎ 問題場面における考察の対象を明確に捉えること
- ◎ 二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈すること
- ▲ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること
- ▲ 筋道を立てて考え、証明すること



3 児童生徒質問紙調査の結果

望ましい状況
課題のみられる状況

- ◎ 「朝食を毎日食べている」と答えた児童生徒の割合が高いこと
- ◎ 「人の役に立つ人間になりたい」と答えた児童生徒の割合が高いこと
- ◎ 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた児童生徒の割合が高いこと



- ▲ 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、学び方を考え、工夫する」と答えた児童生徒の割合が低いこと
- ▲ 「人が困っているときは、進んで助けている」と答えた児童生徒の割合が低いこと

4 クロス集計による結果

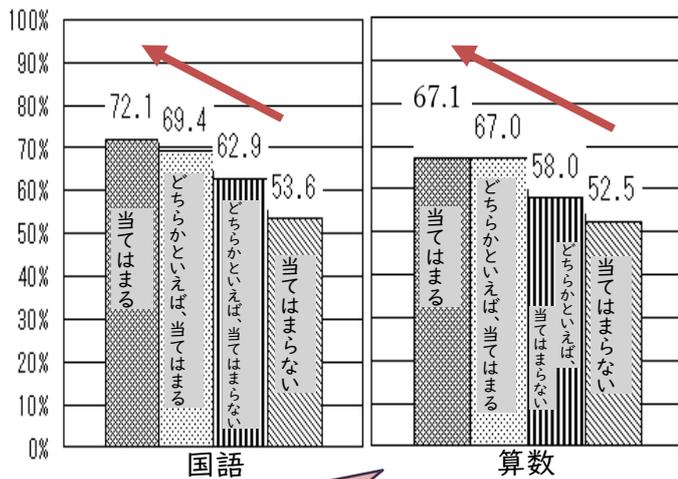
* クロス集計…「児童生徒質問紙調査」と「各教科の平均正答率」との相関関係を調べたものです。

小学校

中学校

平均正答率

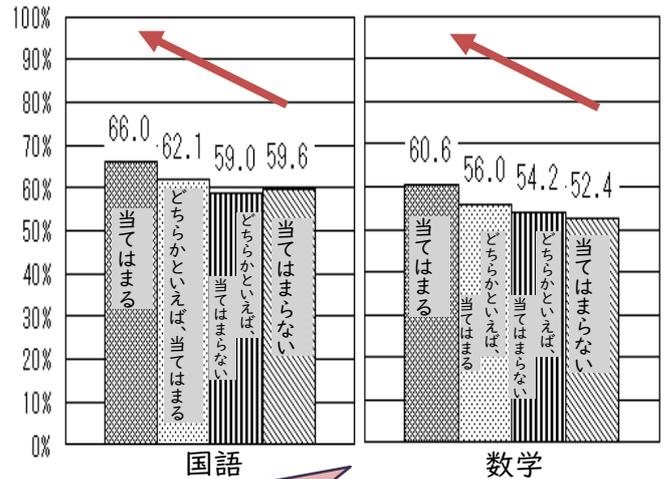
毎日、同じぐらいの時刻に寝ていますか



就寝時刻が同じぐらいと答えた児童ほど、平均正答率が高い傾向が見られます。

平均正答率

自分には、よいところがあると思いますか



「自分には、よいところがある」と答えた生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られます。

5 今後の取組

★ 学 校

- 学校の組織的取組の強化
(教科・学年の枠を超えた研修の推進、学力向上プランの見直し・改善、中学校区における小中連携の取組、ICT 機器を活用した授業実践等)
- 児童生徒の「学力」の向上をめざす授業改善
(「キラリくだまつ授業づくり」の活用、誤答分析を生かした授業改善等)
- 校内研修の活性化と指導の充実
(「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業や研修の充実、「やまぐち学習支援プログラム」や「学力定着状況確認問題」の活用等)

★ 家庭・地域

- 学習・生活習慣の確立
(「家庭学習の手引き」等の活用、家庭における生活習慣の見直し等)
- コミュニティ・スクールを生かした学習支援、ユニット型研修による人材育成 (地域の人材による支援等) 学力向上をテーマにした話し合い (学力熟議)

★ 下松市教育委員会

- 「キラリくだまつ授業づくり」の実践事例の紹介
- 課題と考えられる状況等の情報提供
- 学校訪問等による指導・助言
- 「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくりに関する指導・助言
- 下松市学習指導実践研究校の指定
- 下松市教育研究所における人材育成
- 学力向上担当教員等研修会の実施による各校の情報共有等